

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（令和3年度採択）

中間評価結果（公表用／ハード分野）

番号	研究名	研究代表者	評価
2021-5	レーザー打音検査装置を用いた橋梁・トンネル等の道路構造物のうき・剥離の定量的データ化による診断技術の技術研究開発	名古屋大学大学院 教授 中村 光	B
<p><研究の概要></p> <p>本研究では、トンネル点検で社会実装が進みつつあるレーザー打音検査装置について、音波ではなくコンクリート表面の変位（動き）を遠隔で計測できるレーザー打音検査装置の特徴を活かし、「うき・剥離の状態」を定量的データ化することで、検知・記録から診断する技術へ進化させ、橋梁等の道路構造物にも適用範囲を広げるとともに、従来点検以上の品質と効率性の向上を実現する。</p> <p><中間評価結果></p> <p>研究開発は順調に進んでいるが、本研究で目指す損傷検知レベルとレーザー打音により得られる評価指標の関係が、現時点ではやや不明確であることから、指摘事項に留意しながら現行の通り推進することが妥当であると評価する。</p> <p><今後の研究計画・方法への指摘事項等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・レーザー打音と従来打音の比較と検証を実構造物の剥離で行うことの前提として、レーザー打音の測定条件や検出範囲などを明確にしていきたい。 ・無筋コンクリートを対象とした技術の検証や適用性評価について具体的に示していく必要がある。また、従来の非破壊検査技術では検出が困難である目地部のうき・はく離に対する技術の検証や適用性評価を行っていくのがよい。 			

※本中間評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第45回新道路技術会議において審議したものである。